

食のイノベーション推進事業の概要説明資料

1 要旨・目的

農水産事業者の「稼ぐ力」を高めることを目的に実施している「食のイノベーション推進事業」について、仕様書に記載していない過去の取組状況や県が直接実施する事項等について補足説明する。

2 現状・背景

広島県では、生産性の高い農業を実現し安定した所得を確保しながら、本県の農業をリードする企業経営体の育成支援を進めている。その中で「異業種と連携したい」、「社会環境の変化をビジネスにつなげたい」など、新たなビジネスの創発を希望する意欲的な農業経営体が現れており、こうした経営体の経営発展を促すため、多様な業種の企業と農業経営体が連携し、専門家のアドバイスを受けながら、新商品やサービスの提供など、新たな「食」のビジネスを創発する取組を進めるプログラム「Hiroshima FOOD BATON (ひろしまフードバトン)」を実施している。

こうした中、令和4年度及び令和5年度の事業に対して様々な分野から関心が高まっていることから、令和6年度より農業分野に加え水産分野にも対象を広げ取組を推進している。

3 これまでの採択者に係る取組概要

(1) 令和4年度採択プロジェクトの概要

ア プロジェクト名：薬局 DE 野菜（やっきょくでやさい）

（ア）起案代表者：株式会社 FARMERS PROFIT 竹内正智（広島市）【青果物卸売業】

（イ）取組内容

- ・ 健康をテーマにした野菜販売の「棚」を調剤薬局に設置。
- ・ ニッチな野菜など流通の少なかった野菜の販路開拓・生産者育成に挑戦。



（ウ）これまでの成果

- ・ 薬局という新たな野菜の販売先を開拓し、新たな販売先を創出。
- ・ ニッチ野菜については、JA全農ひろしまと協業することで無印良品や県内量販店への取扱いが拡大し、100店舗での取扱いを達成。

イ プロジェクト名：HIROSHIMA HYBRID DESIGN (ひろしまハイブリッドデザイン)

（ア）起案代表者：株式会社 ATORA 小野 敏史（広島市）【食品製造業】

（イ）取組内容

- ・ 高品質な冷凍食品の商品化で、飲食店向けに食の新たな可能性を追求。
- ・ サイズの小さい未利用牡蠣などの県産食材を使い新たな価値創出モデルに挑戦。



（ウ）これまでの成果

- ・未利用素材や規格外農産物を活用し、超瞬間冷凍・加工技術で周年での販売機会を創出し、フードロス削減につながった。
- ・自社製の瞬間冷凍食品を扱う飲食店向けのモデル店舗を立ち上げるとともに、他の飲食店向けの商品開発を行い、県産農産物の流通増に貢献。

ウ プロジェクト名：comorebi commune（こもれびコミューン）

(ア) 起案代表者：合同会社 comorebi farm 小嶋正太郎（尾道市）

【農業経営体（八朔、安政柑）】

(イ) 取組内容

- ・因島で、柑橘の半農半Xによる新たな新規就農者育成モデルに挑戦。
- ・デザインとストーリー性で共感を生む柑橘を使った商品開発・販売を実施。



(ウ) これまでの成果

- ・半農半Xでのクリエイターの新たな新規就農モデルの構築を行い、耕作放棄地9,000 m²の再生と新たな新規就農者2名の確保につながった。
- ・ピエール・エルメや無印良品など様々な企業とコラボし、comorebi farmの八朔を使用したコラボレーション商品が7件開発・販売された。

(2) 令和5年度採択プロジェクトの概要

ア プロジェクト名：Fair-Farm Credit（フェアファームクレジット）

(ア) 起案代表者：株式会社 Rev0 本多正樹（安芸高田市）【農業経営体（水稻）】

(イ) 取組内容

- ・温室効果ガス削減に寄与する水稻の中干し延長でクレジットを創出・販売。
- ・生産者主体で一次産業の脱炭素化の推進モデル創出に挑戦。



(ウ) これまでの成果

- ・生産者を束ねる協議会を設立し、中干し延長によるクレジット創出に挑戦。（令和6年度取組経営体：9者、取組面積：155.6ha）
- ・水稻栽培の中干し期間延長によるJ-クレジット認証を広島県で初めて取得。創出したクレジットの一部を温室効果ガス排出権の取引として、広島銀行と販売契約を締結。

イ プロジェクト名：MOTTAINAI BATON（モッタイナイバトン）

(ア) 起案代表者：MOTTAINAI BATON 株式会社 目取眞興明

(東京都)【販売・サービス業】

(イ) 取組内容

- ・廃棄される「もったいない」食材を活用したレトルトカレーを企画・開発。
- ・学校の探究学習等を通じた「エシカル消費×地域活性化」モデル創出に挑戦。

(ウ) これまでの成果

- これまで廃棄されていた農水産物をレトルトカレーに加工・販売。
- 学校の探究学習等で学生と一緒に取り組むことで、県産農産物への理解促進にも寄与した。
- 広島県内外の企業・学校などで「置きカレー」（カレーの無人販売所）を設置し、新しい活用シーンを開拓。



ウ プロジェクト名：FARM TO BABY（ファームトゥベイビー）

(ア) 起案代表者：おいしい未来株式会社 矢野智美

(安芸高田市)【農業経営体（水稻）】

(イ) 取組内容

- 広島県産の特別栽培米等を使い、ベビー幼児フードを開発・販売。
- 環境に配慮して作られた県産米の付加価値化に挑戦。



(ウ) これまでの成果

- 特別栽培米等をベビー幼児フードに加工し、お米のスナックやホットケーキミックスなどの商品を開発・販売した。

(3) 令和6年度採択プロジェクトの概要

ア プロジェクト名：地域共創ハレノベジプロジェクト

(ア) 起案代表者：オタフクソース株式会社（広島市）【食品メーカー】

(イ) 取組内容

- 地域の生産者が6次産業化への第一歩を踏み出すために、農作物を活用した調味料の開発から販路までをワンストップで支援するサービスを開く。
- 総合調味料メーカーとのコラボレーションによる、生産者のブランド価値向上と6次産業化を推進。



(ウ) これまでの成果

- 東広島市の農産物を使用したソースを開発し、販売をサポート。
- その他県内各地域の生産者等と連携した様々な商品を開発中。

イ プロジェクト名：怪獣レモンプロジェクト

(ア) 起案代表者：株式会社瀬戸内百姓（尾道市）【地域商社】

(イ) 取組内容

- 瀬戸内産レモンの規格外品を「怪獣レモン」というブランド原料に昇華。
- 大企業とのコラボレーション商品やオリジナル商品を展開

(ウ) これまでの成果

- 大手企業とのコラボを通じた新商品の全国展開を実施。
- 怪獣レモンブランドのオリジナルお土産商品を開発・販売した。



ウ プロジェクト名： ウェルビーイング野菜プロジェクト

(ア) 起案代表者：株式会社ユウゲン（広島市）【農業経営体】

(イ) 取組内容

- ウェルビーイング野菜として新しい流通価値基準を創出。
- 認証の仕組みを構築し、野菜の付加価値向上に貢献



(ウ) これまでの成果

- ウェルビーイング野菜として認証する制度を構築し、制度に賛同する生産者が31事業者に拡大。
- 福屋広島駅前店と無印良品アルパーク店にて、ウェルビーイング野菜の常設販売が決定

(4) 令和7年度採択プロジェクトの概要

ア プロジェクト名： 田万里家 RICE DONUT プロジェクト

(ア) 起案代表者：農ライフアーズ株式会社（竹原市）【サービス業】

(イ) 取組内容

- 竹原市の田万里町で生まれたブランド「田万里家 RICE DONUT」を核に、広島の農・食・観光資源を活かした地域発スイーツブランドを構築することで、持続可能な農村経済の活性化と集落の田んぼの再生を目指す。
- 自ら米粉を生産しながら、県内の農水産事業者と連携したコラボ商品の開発、観光地出店・ECなど複線的な販路整備を進め、国内外の健康志向層や訪日旅行客に向けた情報発信・商品展開を推進する。



イ プロジェクト名： SETOUCHI HERB TEA

(ア) 起案代表者：みなと組（尾道市）【農業経営体】

(イ) 取組内容

- ・ 県産ハーブティーを広島県の新たな特産品としてブランド化、産地形成していくことで持続可能な農業の実現、地域経済の発展を目指す。
- ・ 県産ハーブティーを手に取りやすい個包装パッケージに加工し、ホテルのアメニティや広島土産として展開していくことで、契約農家へ新たな利益をもたらす事業モデルを確立する。



ウ プロジェクト名： わらしへ農家プロジェクト

(ア) 起案代表者：けわりも農店（東広島市）【農業資材卸売業】

(イ) 取組内容

- ・ 工場等で発生する未利用資源を農業資材に再利用することで、生産現場の資材コスト低減・規格外農産物の販売による生産者所得の最大化を目指す。
- ・ 食品工場で発生する汚泥をたい肥に、壁紙メーカーの余剰壁紙を防草マルチへ転用するなど、各業界の「未利用資源」を農業生産に活用することに加え、規格外農産物を県内の飲食店や食品加工会社へ供給する仕組みを構築する。



4 令和7年度の取組概要

(1) 参加事業者の募集

本事業を推進する特設サイトで、広島県内の農水産事業者や全国の多様な業種の企業の参加募集を開始した。

ア 募集期間

令和7年4月30日（水）～7月18日（金）

イ 特設サイト URL

<https://foodbaton.hiroshima-ouen.com/>

ウ 募集テーマ

- ・いつも美味しい農水産物の価値が味わえるビジネスの創出
- ・多品種・多商品型の地域食品加工サービスビジネスの創出
- ・地域コミュニティ共創による農水産ブランドビジネスの創出
- ・「食」を楽しくする「農水産」体験ビジネスの創出
- ・フードロスを減らす新たなエシカル消費型ビジネスの創出
- ・環境価値を活用した食の循環経済ビジネスの創出
- ・多様な人材ネットワーク活用によるワークシェアビジネスの創出
- ・農水産物を適時に安定供給できるサプライチェーンビジネスの創出
- ・市場ニーズを踏まえた農水産物開発・販売の最適化ビジネスの創出

(2) プロジェクトチームの立ち上げ

ア プロジェクトの立ち上げに係るフォローアップ

5月16日にイノベーション・ハブ・ひろしまCamps、5月20日には東広島イノベーションラボミライノ+において、本事業の内容や個別相談会等について説明する募集セミナーを開催するとともに、7月中旬まで個別相談会を実施し、応募から審査までのフォローアップを行った。

イ 1次審査

農業経営体や販売・サービス業など幅広い分野の11事業者から12件のプロジェクトの応募があり、適合性、革新性、将来性及び貢献性を評価項目として、7月24日から28日にかけて1次審査を行い、6件のプロジェクトを決定した。

ウ 2次（最終）審査

1次審査を通過した6件のプロジェクトについて、実行計画の具体化及び精緻化に向けた伴走支援を行った後、1次審査項目に妥当性及び実現性の項目を加え9月2日に2次審査を行い、3件のプロジェクトを採択した。

なお、審査は、1次、2次とともに、食の専門家（県立広島大学教授）、合同会社MHDF（委託事業者）、県職員が行った。

(3) プロジェクトの実行計画に基づく新たなビジネスの実現に向けた支援等

- ・新商品や新サービスの提供に向けた専門家による課題解決支援
- ・現地実証に係る経費の支援
- ・令和7年度支援件数 9件

【支援件数内訳】

新規採択（令和7年度採択）：3件、採択2年目（令和6年度採択）：3件、
採択3年目（令和5年度採択）：3件

5 令和8年度の取組概要

(1) 委託業務で実施する事項

- ・意欲的な事業者が集まる県や各市町のコミュニティ等との連携による新たな食ビジネス創発への興味・関心を高めるイベントの開催
- ・農水産事業者と企業のマッチング及びプロジェクトの実行計画の作成支援
- ・新商品や新サービスの提供に向けた専門家による課題解決支援

【採択件数】新規3件（令和8年度採択）、
継続6件（令和7年度採択3件、令和6年度採択3件）

【支援期間】最長3年

※詳細は、食のイノベーション推進事業業務委託仕様書のとおり。

(2) 県が直接実施する事項

- ・採択プロジェクトの現地実証に係る経費の支援

県から各採択プロジェクトの代表事業者へ現地実証に係る経費を支援する補助金を交付する。

【支援金額】

令和8年度採択プロジェクト 最大250万円×3件

令和 7 年度採択プロジェクト 最大 250 万円×3 件

令和 6 年度採択プロジェクト 最大 200 万円×3 件